

**京都市の文化芸術に係る  
アンケート調査の結果**

平成 23 年 10 月

京都市

## 調査の概要

### 1 調査目的

- ・文化芸術都市創生計画改定のための基礎資料とする。
- ・市民の文化芸術活動参加状況や意識，ニーズを把握する。

### 2 調査概要

- ・調査対象 20歳以上の京都市民3,000人  
(平成23年5月1日現在の住民基本台帳登録者及び外国人登録者から無作為抽出。)
- ・調査方法 調査票の配布・回収は郵送による。
- ・調査期間 平成23年5月6日(金)～5月23日(月)
- ・回収状況 有効回収数984(有効回収率32.8%)

#### ・比較対象となる各種調査

|      | 調査名                                    | 実施主体 | 実施時期     | 備考   |
|------|--|------|----------|--|
| 過去調査 | 平成18年度第1回<br>市政総合アンケート<br>テーマ「京都の文化芸術」 | 京都市  | 平成18年7月  | 調査対象数 1,201人(回収率 40.0%)<br>(調査方法 郵送による配布・回収)   |
| 全国調査 | 文化に関する世論調査<br>(以下「全国調査1」という。)          | 内閣府  | 平成21年11月 | 調査対象数 1,853人(回収率 61.8%)<br>(調査方法 調査員による個別面接聴取) |
|      | 文化に関する世論調査<br>(以下「全国調査2」という。)          | 内閣府  | 平成15年11月 | 調査対象数 2,094人(回収率 69.8%)<br>(調査方法 調査員による個別面接聴取) |

#### ・設問項目

| 項目                 | 設問内容                    | 過去調査     | 全国調査              |
|--------------------|-------------------------|----------|-------------------|
| 市民の文化芸術活動状況と重要性の認識 | 問1 文化芸術鑑賞の有無(過去1年間)     | 問2(参考比較) | 問1(21年)           |
|                    | 問2 文化芸術鑑賞の頻度            | 問3(参考比較) |                   |
|                    | 問3 文化芸術の創作等の有無          | 問2(参考比較) | 問5(21年)           |
|                    | 問4 文化芸術の創作等の頻度          | 問3(参考比較) |                   |
|                    | 問5 文化芸術の重要性             |          | 問15(21年), 問6(15年) |
| 文化芸術振興の基盤          | 問6 京都市の文化芸術的環境          |          | 問6(21年)           |
|                    | 問7 文化芸術の情報              |          |                   |
|                    | 問8 条例の認知                |          |                   |
| 分野別推進方策            | 問9 文化芸術都市創生の担い手         | 問4       |                   |
|                    | 問10 暮らしの文化              | 問6       |                   |
|                    | 問11 伝統文化の保存・継承          | 問7       |                   |
|                    | 問12 新たな文化芸術の創造          | 問8       |                   |
|                    | 問13 京都の文化芸術の情報発信        |          |                   |
|                    | 問14 文化財の保護・活用           |          |                   |
|                    | 問15 文化芸術と産業             | 問10      |                   |
|                    | 問16 文化芸術による地域の活性化       | 問5       |                   |
| 重要な施策とは            | 問17 文化芸術に関する交流          | 問9       |                   |
| フェイスシート            | 問18 文化芸術都市創生に向けて        |          |                   |
|                    | 問19 性別/年齢/居住地/家族構成/居住年数 |          |                   |
| 自由記述               | 問20 自由記述                |          |                   |

・回答者の属性

| 区分 | 人   | % |
|----|-----|---|
| 全体 | 984 | — |

|    |     |     |      |
|----|-----|-----|------|
| 性別 | 男   | 386 | 39.2 |
|    | 女   | 590 | 60.0 |
|    | 無回答 | 8   | 0.8  |

|     |       |     |      |
|-----|-------|-----|------|
| 年齢別 | 20歳代  | 102 | 10.4 |
|     | 30歳代  | 158 | 16.1 |
|     | 40歳代  | 139 | 14.1 |
|     | 50歳代  | 157 | 16.0 |
|     | 60歳代  | 220 | 22.4 |
|     | 70歳以上 | 202 | 20.5 |
|     | 無回答   | 6   | 0.6  |

|      |     |     |      |
|------|-----|-----|------|
| 居住地区 | 北区  | 86  | 8.7  |
|      | 上京区 | 56  | 5.7  |
|      | 左京区 | 127 | 12.9 |
|      | 中京区 | 79  | 8.0  |
|      | 東山区 | 33  | 3.4  |
|      | 山科区 | 83  | 8.4  |
|      | 下京区 | 48  | 4.9  |
|      | 南区  | 61  | 6.2  |
|      | 右京区 | 130 | 13.2 |
|      | 西京区 | 121 | 12.3 |
|      | 伏見区 | 154 | 15.7 |
|      | 無回答 | 6   | 0.6  |

|      |      |     |      |
|------|------|-----|------|
| 家族構成 | 単身   | 135 | 13.7 |
|      | 夫婦2人 | 271 | 27.5 |
|      | 2世代  | 469 | 47.7 |
|      | 3世代  | 62  | 6.3  |
|      | その他  | 39  | 4.0  |
|      | 無回答  | 8   | 0.8  |

|      |             |     |      |
|------|-------------|-----|------|
| 居住年数 | 1年未満        | 33  | 3.4  |
|      | 1年以上～5年未満   | 33  | 3.4  |
|      | 5年以上～10年未満  | 35  | 3.6  |
|      | 10年以上～20年未満 | 96  | 9.8  |
|      | 20年以上       | 778 | 79.1 |
|      | 無回答         | 9   | 0.9  |

## 調査の結果

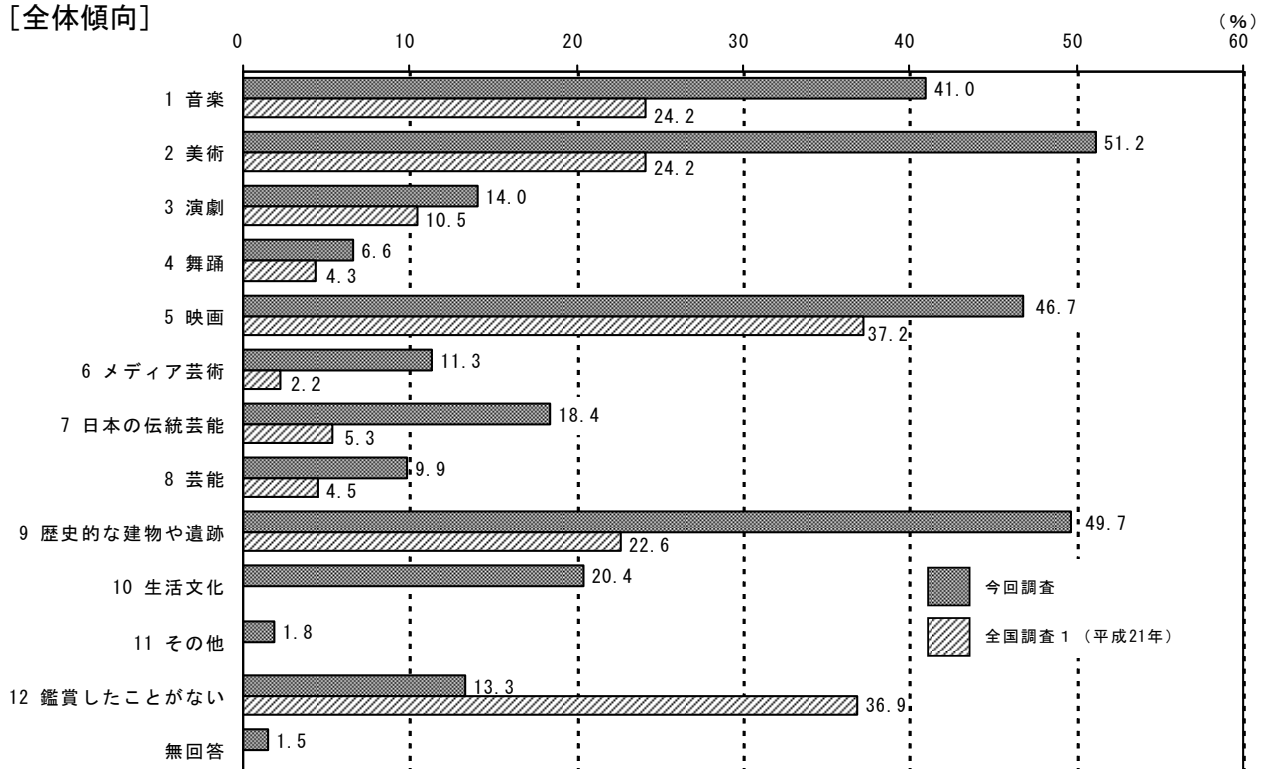
### 1 市民の文化芸術活動状況と重要性の認識

- ☞ 過去1年間の文化芸術鑑賞率は、「美術」(51%)、「歴史的な建物や遺跡」(50%)、「映画」(47%)、「音楽」(41%)が40%以上。「鑑賞しなかった」は13%  
特に、「美術」,「歴史的な建物や遺跡」は全国の2倍以上あり,「鑑賞しなかった」は全国より20ポイント少ない。
- ☞ 鑑賞の頻度は,「年に数回程度」(63%)が多いが,「月に1~2回くらい」も26%を占める。「週に1~2回くらい」(6%)と「ほぼ毎日」(4%)を合わせると10%
- ☞ 創作・参加,文化ボランティア等については,「音楽,舞踊,華道,茶道,書道等の習い事」が15%(全国の2倍),「地域の芸能や祭りへの参加」が14%(全国の1.4倍),「文学,音楽,美術,演劇,舞踊,映画等の創作・参加」は12%(全国の1.6倍)。「特にしなかった」は64%と多いが,全国調査と比べると10ポイント少ない。
- ☞ 創作・参加,ボランティア等の参加頻度は,「年に数回程度」(44%)が最も多いものの,「週に1~2回くらい」(14%),「ほぼ毎日」(7%)の合計も20%ある。
- ☞ 日常生活の中で,優れた文化芸術を体験したり,自ら文化芸術を行ったりすることが「大切だ」と感じる人は8割以上

### 文化芸術鑑賞の有無（過去1年間）

問1 あなたは,過去1年間にコンサートホール,劇場,映画館,美術館,博物館等で,文化芸術を鑑賞・体験されたことがありますか。(○印はいくつでも)

#### [全体傾向]



市民の文化芸術鑑賞率は、「美術（絵画、彫刻、書道、工芸、陶芸、写真等）」（51.2%）、「歴史的な建物や遺跡」（49.7%）、「映画」（46.7%）、「音楽（歌謡曲、ポップス、管弦楽、室内楽、民謡、長唄等）」（41.0%）の4項目が40%を超えている。特に1、2位は、全国調査1の2倍以上の鑑賞率となっており、「鑑賞したことがない」も20ポイント以上少ない。京都市が文化芸術都市であることの現れの一つと考えられる。

過去調査は鑑賞経験と創作・参加を合わせて尋ねているため、これとの直接比較はしにくいですが、鑑賞率は概ね上がっている。

〔過去調査との比較〕

|      | 1<br>音楽<br>(歌謡曲、<br>室内楽、<br>民謡、<br>長唄等) | 2<br>美術<br>(絵画、<br>彫刻、<br>書道、<br>工<br>芸、<br>陶芸、<br>写真等) | 3<br>演劇<br>(現代劇、<br>ミュージカル<br>等) | 4<br>舞踊<br>(バレエ、<br>ダンス等) | 5<br>映画<br>(アニメーションはメ<br>ディア芸術に含む) | 6<br>メディア芸術<br>(漫画、アニメ<br>ーション等。映画は除く) | 7<br>日本の伝統芸能<br>(能、狂言、<br>歌舞伎、日本舞踊等) | 8<br>芸能<br>(落語、漫談、<br>神楽、民<br>俗芸能等) | 9<br>歴史的な建物や遺跡 | 10<br>生活文化<br>(茶道、いけばな、<br>盆栽等) | 11<br>その他 | 12<br>鑑賞したことがない |
|------|---|---|----------------------------------|---------------------------|------------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------------------|----------------|---------------------------------|-----------|-----------------|
| 今回調査 | 41.0                                    | 51.2  | 14.0                             | 6.6                       | 46.7                               | 11.3                                   | 18.4                                 | 9.9                                 | 49.7           | 20.4                            | 1.8       | 13.3            |
| 過去調査 | 1<br>映画やコンサート、<br>演劇などを鑑賞する<br>展覧会      |   |                                  |                           |                                    | 2<br>能や狂言、歌舞伎などの<br>伝統芸能を鑑賞する          |                                      | 4<br>お花を生けたりお茶を点<br>てたりする           |                |                                 |           |                 |
|      | 61.4                                    |   |                                  |                           |                                    | 16.5                                   |                                      | 18.4                                |                |                                 |           |                 |

〔注〕 過去調査の問「文化芸術活動をどのように楽しんでいますか」

映画やコンサート、展覧会、演劇などを鑑賞する 61.4%

能や狂言、歌舞伎などの伝統芸能を鑑賞する 16.5%

日常生活の中で、絵を描くことや、写真撮影、音楽の演奏などを楽しんでいる 24.9%

日常生活の中で、お花を生けたりお茶を点てたり伝統文化に親しんでいる 18.4%

絵画、写真撮影、音楽などの習い事をしている 8.4%

華道、茶道などの伝統文化の習い事をしている 5.1%

自らが芸術創作活動をしている 5.1%

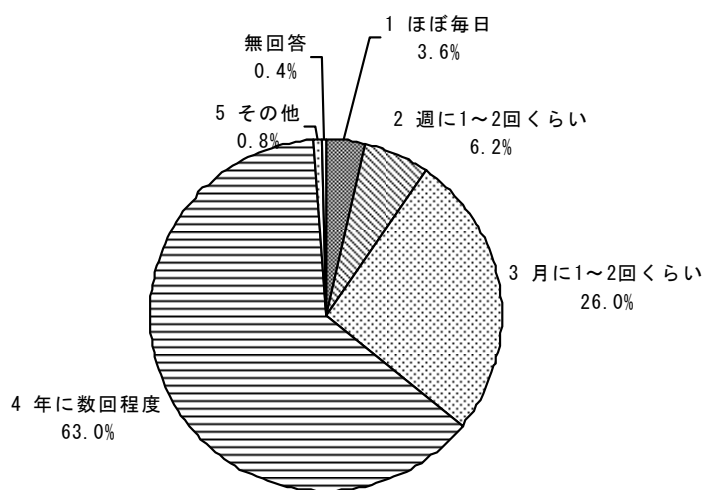
## 文化芸術鑑賞の頻度

問2 あなたは、普段、どのくらいの頻度で、文化芸術を鑑賞・体験されていますか。(○印は一つだけ)

### [全体傾向]

「年に数回程度」(63.0%)が多いが、「月に1~2回くらい」も26.0%を占める。「週に1~2回くらい」(6.2%)と「ほぼ毎日」(3.6%)を合わせると約10%である。

(過去調査は鑑賞と創作・参加を合わせて頻度を尋ねているため、問4において記載)



(N=838人)

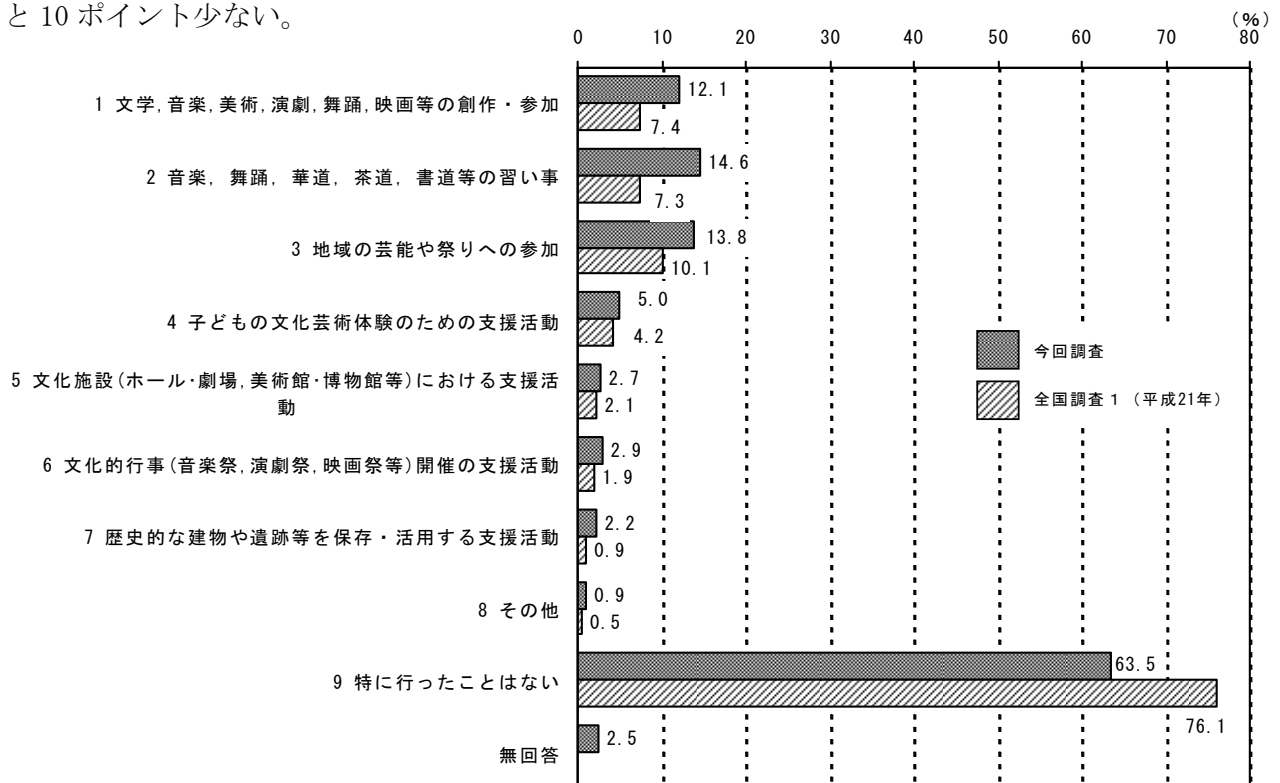
前問で「鑑賞したことがない」及び無回答者を除外

## 文化芸術の創作等の有無

問3 あなたは、過去1年間に、鑑賞を除いて、自分で創作・参加したり、文化芸術体験を支援する文化ボランティアの活動を行ったりするなど、文化芸術にかかわる活動をされたことはありますか。  
(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「音楽、舞踊、華道、茶道、書道等の習い事」は14.6%（全国の2倍）、「地域の芸能や祭りへの参加」は13.8%（同1.4倍）、「文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画等の創作・参加」は12.1%（同1.6倍）となっている。「特に行ったことはない」が63.5%と多いが、全国調査1と比べると10ポイント少ない。

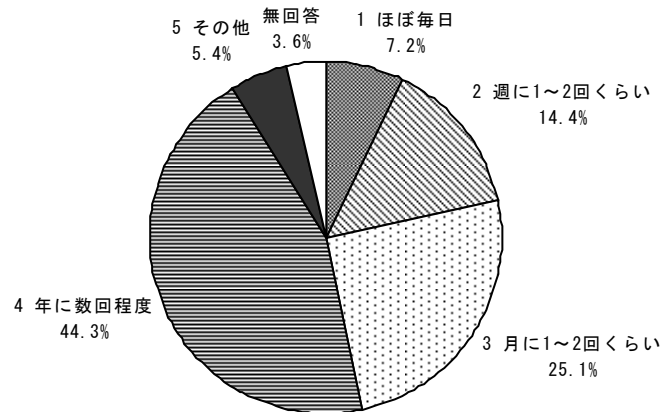


## 文化芸術の創作等の頻度

問4 あなたは、普段、どのくらいの頻度で、鑑賞を除いて、文化芸術にかかわる活動を行っていますか。  
(○印は一つだけ)

### [全体傾向]

「年に数回程度」(44.3%)が最も多いものの、「ほぼ毎日」(7.2%)と「週に1~2回くらい」(14.4%)の合計も20%を超える。



(N=334人)

前問で「特に行ったことがない」及び無回答者を除外

[注] 過去調査の間「文化芸術活動をどのくらいの頻度で楽しんでいますか」

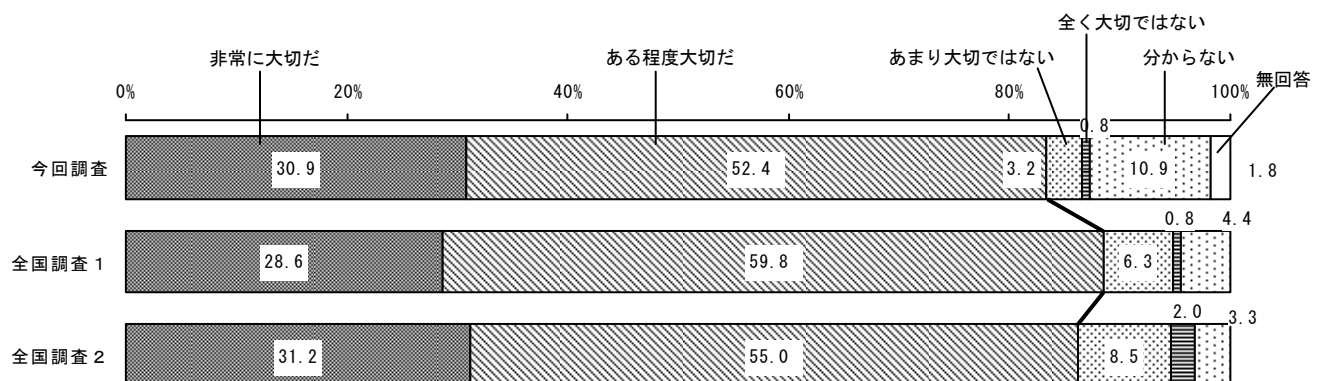
ほぼ毎日 5.5%  
週に1~2回くらい 15.3%  
月に1~2回くらい 33.3%  
年に数回程度 41.2%

## 文化芸術の重要性

問5 あなたは、日常生活の中で、優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて、どのように思いますか。  
(○印は一つだけ)

### [全体傾向]

「非常に大切だ」(30.9%)と「ある程度大切だ」(52.4%)を合わせると80%を超える。ただし、全国調査1の88.4%に比べると若干低い。





## 2 文化芸術振興の基盤

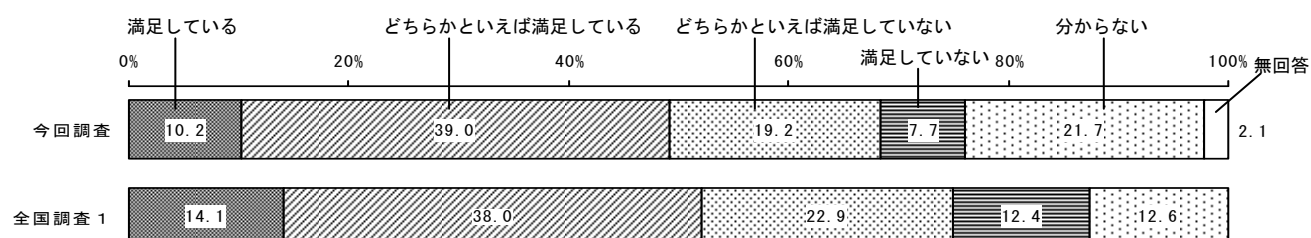
- ☞ 京都市の文化芸術的環境（鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備等）に「満足している」と感じる人は49%
- ☞ 情報入手先は「新聞」（47%）、「市民しんぶん」（46%）が40%以上。その他、「ポスター」（36%）、「テレビ」（35%）、「インターネット（パソコン）」（35%）、「友人・知人・家族」（32%）の順
- ☞ 「京都文化芸術都市創生条例」の存在を知っていた人は15%

### 京都市の文化芸術的環境

問6 あなたは、京都市の文化芸術的環境（鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備等）に満足していますか。（○印は一つだけ）

#### [全体傾向]

「満足している」（10.2%）、「どちらかといえば満足している」（39.0%）を合わせると、約半数である。満足度は全国調査よりも若干低いですが、「満足していない」が全国調査より5ポイント少なく、「分からない」という判断留保が全国調査より多い。

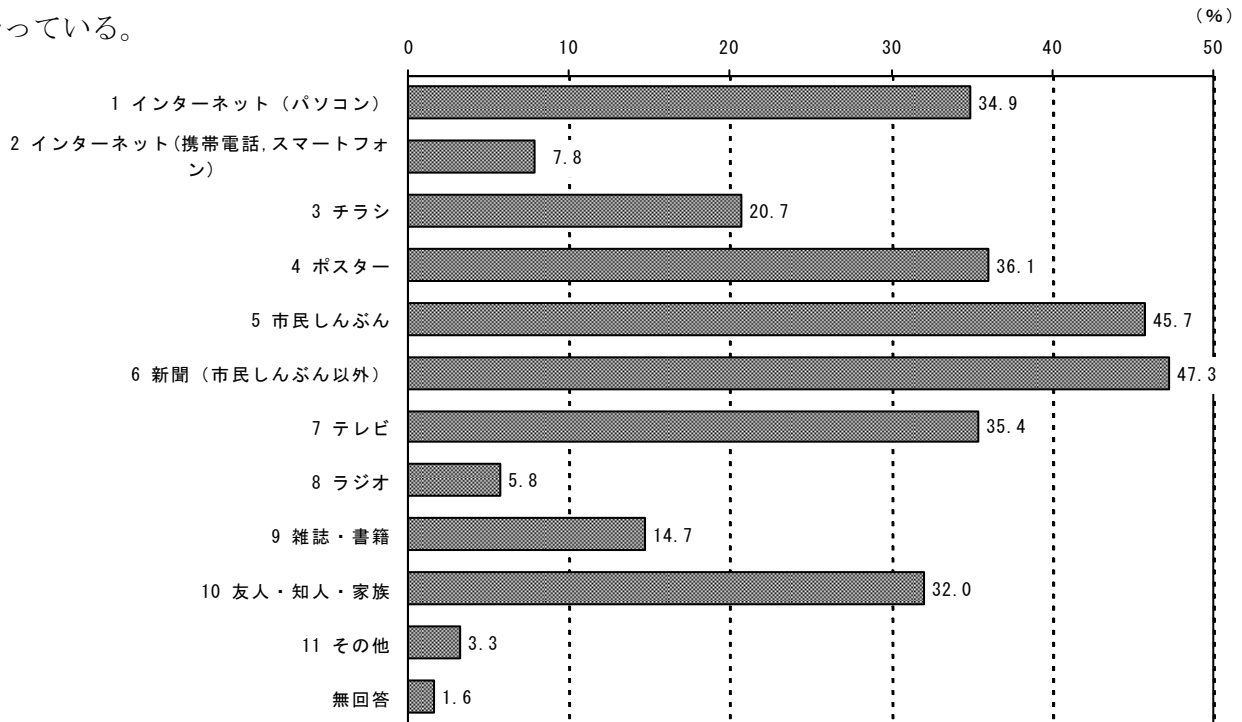


## 文化芸術の情報

問7 あなたは、普段、文化芸術についての情報をどちらで入手されますか。(〇印は三つまで)

### [全体傾向]

「新聞」(47.3%)、「市民しんぶん」(45.7%)が40%以上で高い。次いで、「ポスター」(36.1%)、「テレビ」(35.4%)、「インターネット(パソコン)」(34.9%)、「友人・知人・家族」(32.0%)となっている。

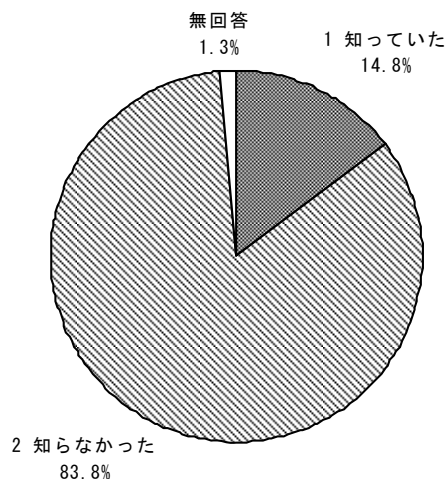


## 条例の認知

問8 京都市は、文化芸術都市・京都の創生のため、平成18年4月に「京都文化芸術都市創生条例」を制定しました。制定したことを御存知でしたか。(〇印は一つだけ)

### [全体傾向]

「知っていた」は14.8%に過ぎず、83.8%が「知らなかった」と回答している。周知徹底が必要である。



### 3 分野別推進方策

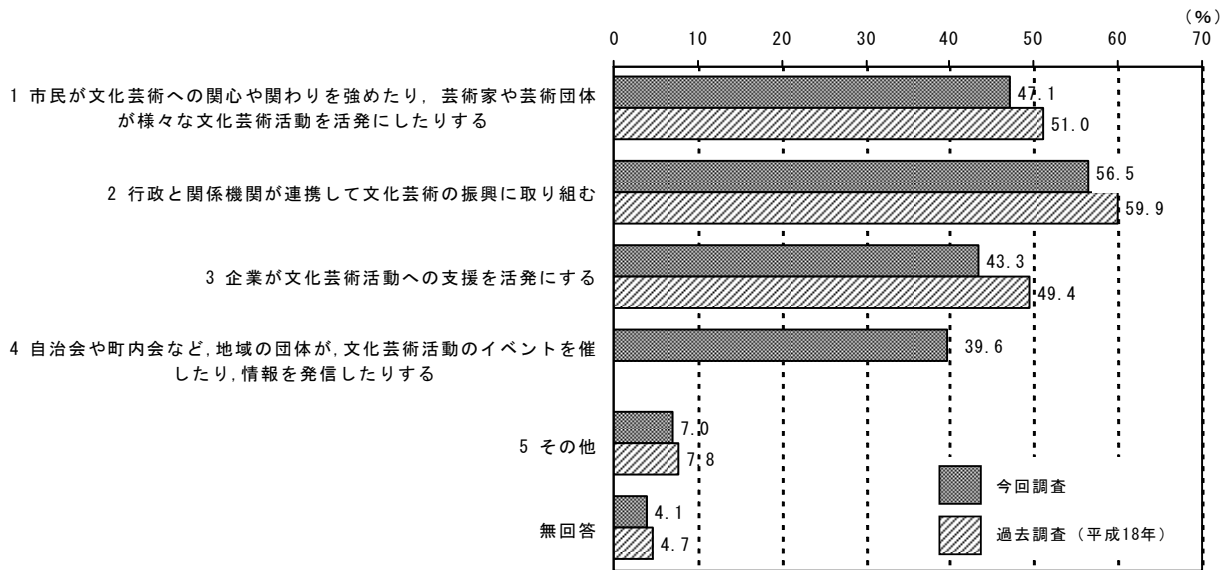
- ☞ 「文化芸術都市」創生に向けて何が必要かについては、「行政と関係機関が連携して文化芸術の振興に取り組む」(57%)が1位で、「市民の関心の向上, 芸術家や芸術団体の活発化」, 「企業の支援」, 「地域の団体の活発化」よりも多い。行政への期待は大きい。
- ☞ 暮らしの文化を次世代に引き継ぐための取組は、「学校の授業や課外活動等において暮らしの文化を子どもたちに教える」が1位(79%)
- ☞ 能, 狂言, 茶道, 華道など, 日本の伝統文化を保存し, 次世代に継承するための取組は, 「市民が気軽に参加, 鑑賞できる催しを実施する」が86%
- ☞ 現代美術や現代演劇など, 新たな文化芸術活動を活発にするための取組は, 「市民が気軽に参加, 鑑賞できる催しを実施する」が76%で, 「練習や発表のための場所を提供する」と「新しい文化芸術活動に関する情報を発信する」が過半数
- ☞ 情報発信を強化するための取組は, 「マスメディア等と連携した情報発信」(80%), 「インターネットによる情報発信」(53%)が上位
- ☞ 文化財を保護・活用するための取組は, 「市民が文化財に触れる機会を充実させる」(71%), 「文化財保存技術を継承する者を育成する」(60%)が50%以上
- ☞ 文化芸術と産業が連携し, とともに発展するための取組は, 「京都の文化芸術の魅力を手感できる観光コースの設定など, 京都の文化芸術を観光に生かす」が73%
- ☞ 地域の活性化への影響については, 「他の地域からも人が集まることにより交流が生まれ, にぎわいが生まれる」(72%)が1位
- ☞ 国内外との文化芸術交流を活発化するための取組は, 「関係機関と連携して, 京都の文化芸術を海外に発信する」が60%

#### 文化芸術都市創生の担い手

問9 京都が育ててきた優れた文化芸術は, 国内外の人々に心のうらみや安らぎを提供してきましたが, 近年, 社会状況の変化等により, 文化芸術都市としての京都の個性や魅力が薄れていくことが心配されています。あなたは, このような状況に対してどのような取組が必要だと思われますか。(〇印はいくつでも)

#### [全体傾向]

最も多かったのは「行政と関係機関が連携して文化芸術の振興に取り組む」(56.5%)であり, 次いで, 「市民が文化芸術への関心や関わりを強めたり, 芸術家や芸術団体が様々な文化芸術活動を活発にしたりする」(47.1%), 「企業が文化芸術活動への支援を活発にする」(43.3%), 「自治会や町内会など, 地域の団体が, 文化芸術活動のイベントを催したり, 情報を発信したりする」(39.6%)となっている。

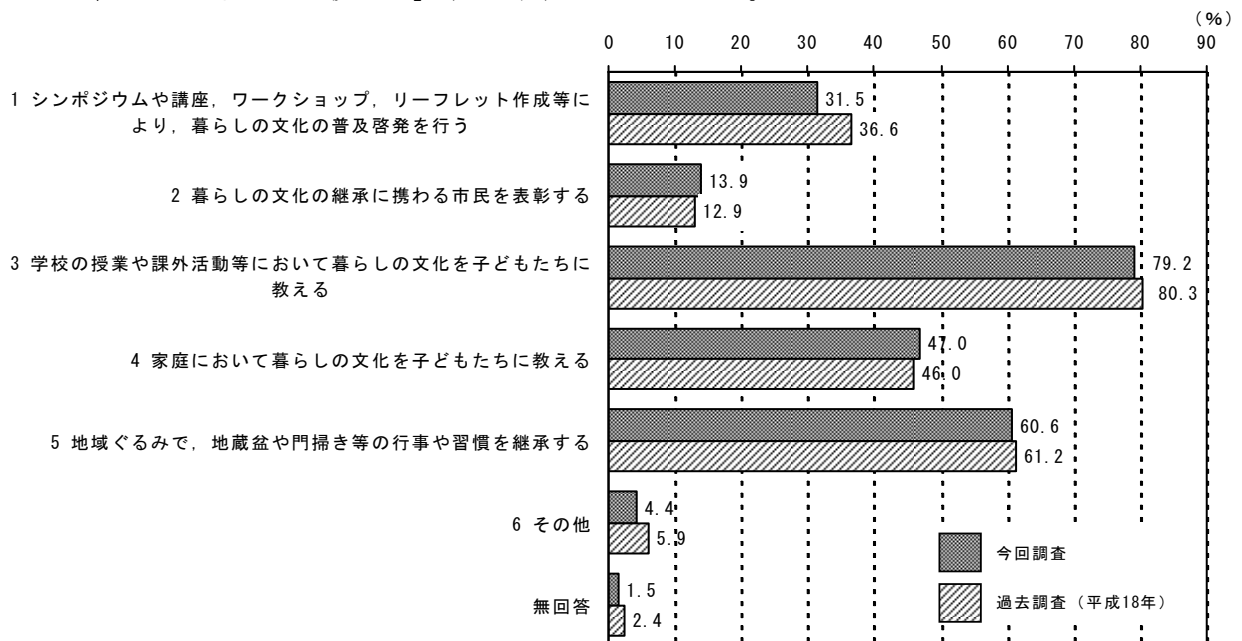


## 暮らしの文化

問 10 京都には、京ことば、歴史に育まれた衣食住の習慣、様々な年中行事など、京都ならではの「暮らしの文化」が受け継がれています。  
 あなたは、これらの暮らしの文化を次の世代に引き継ぐために、どのような取組が必要だと思いますか。  
 (〇印はいくつでも)

### [全体傾向]

「学校の授業や課外活動等において暮らしの文化を子どもたちに教える」(79.2%)が最も多く、次いで「地域ぐるみで、地蔵盆や門掃き等の行事や習慣を継承する」(60.6%)、「家庭において暮らしの文化を子どもたちに教える」(47.0%)となっている。

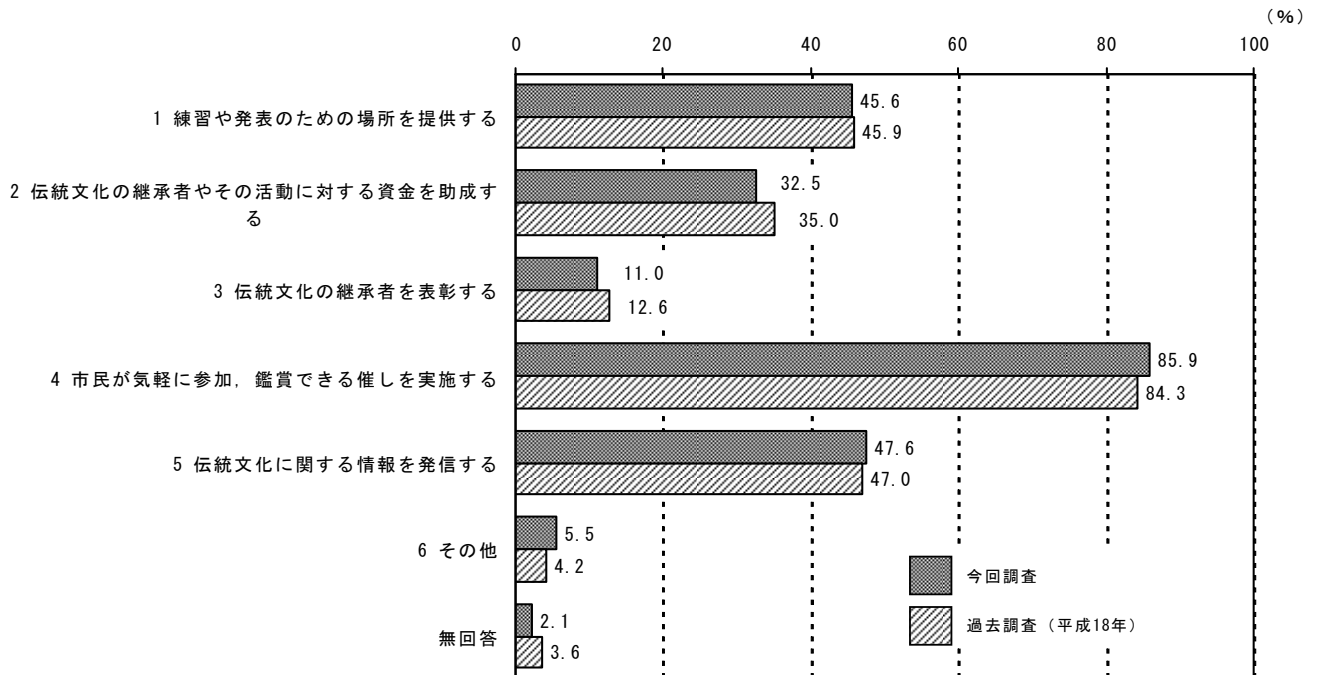


## 伝統文化の保存・継承

問 11 あなたは、能、狂言、茶道、華道など、日本の伝統文化を保存し、次世代に継承するため、どのような取組が必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

### [全体傾向]

「市民が気軽に参加，鑑賞できる催しを実施する」が85.9%で最も多い。

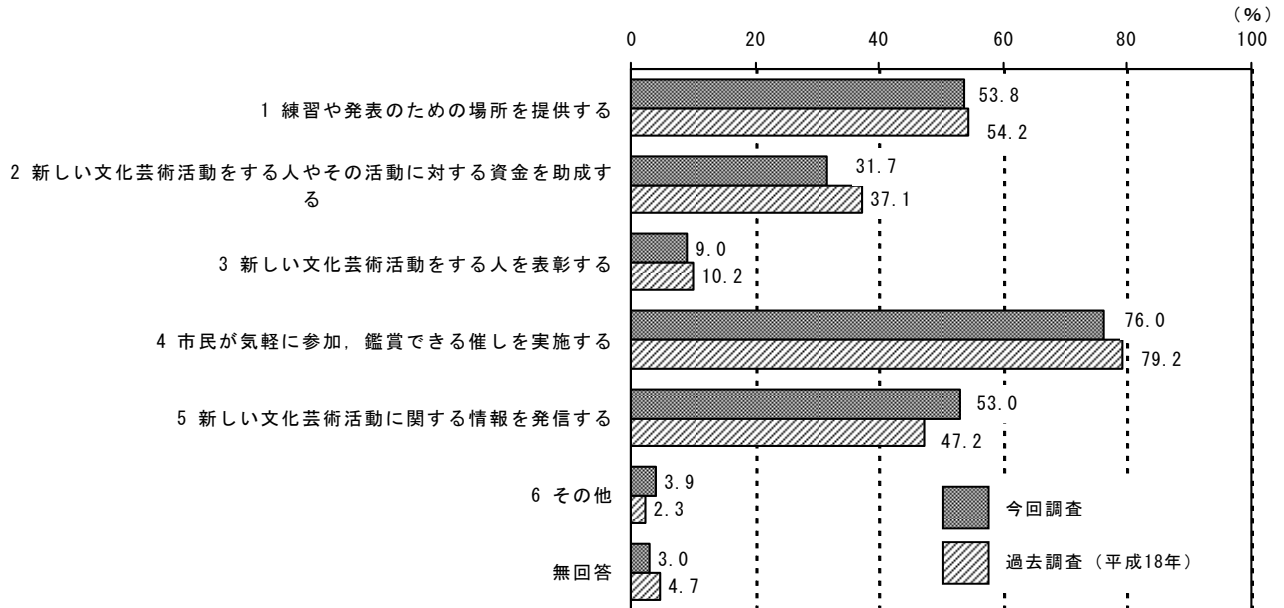


## 新たな文化芸術の創造

問 12 あなたは、現代美術や現代演劇など、新しい文化芸術活動を活発にするため、どのような取組が必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

### [全体傾向]

「市民が気軽に参加，鑑賞できる催しを実施する」が 76.0%で最も多く、「練習や発表のための場所を提供する」(53.8%)と「新しい文化芸術活動に関する情報を発信する」(53.0%)が半数を超えている。

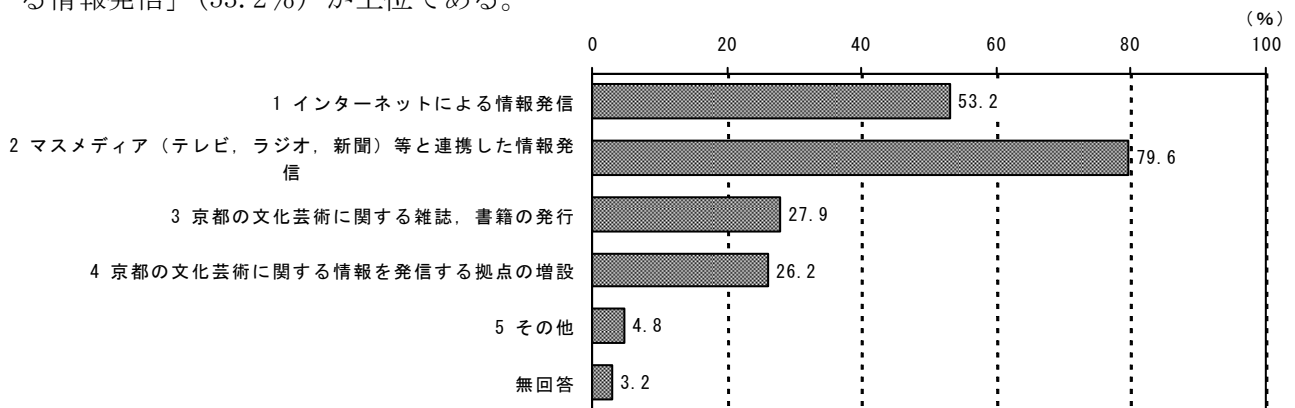


## 京都の文化芸術の情報発信

問 13 あなたは、京都の文化芸術の情報発信を強化するため、どのような取組が必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「マスメディア（テレビ、ラジオ、新聞）等と連携した情報発信」（79.6%）、「インターネットによる情報発信」（53.2%）が上位である。

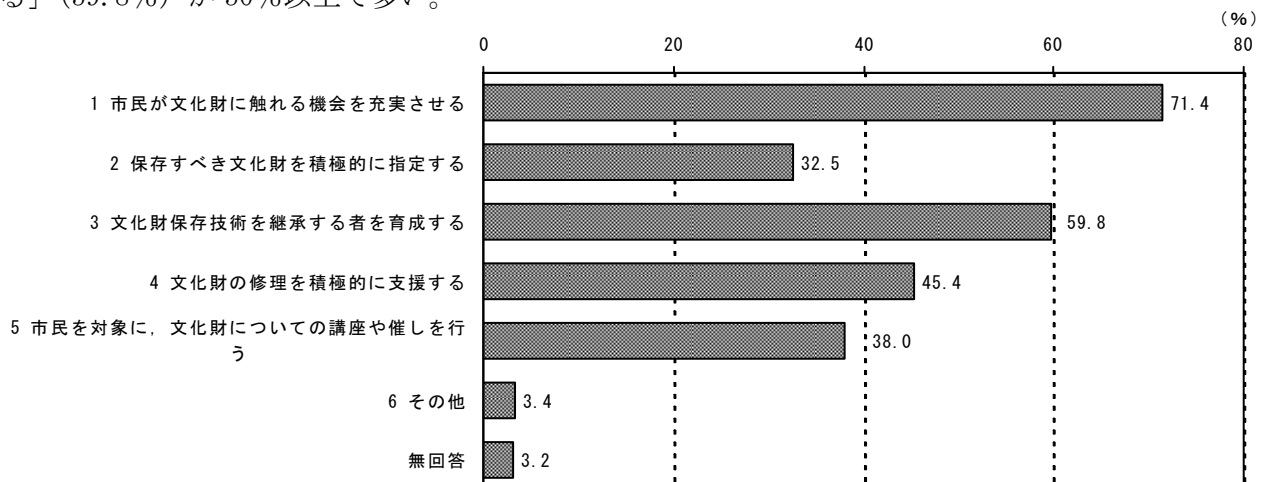


## 文化財の保護・活用

問 14 あなたは、文化財を保護・活用するため、どのような取組が必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「市民が文化財に触れる機会を充実させる」（71.4%）、「文化財保存技術を継承する者を育成する」（59.8%）が50%以上で多い。

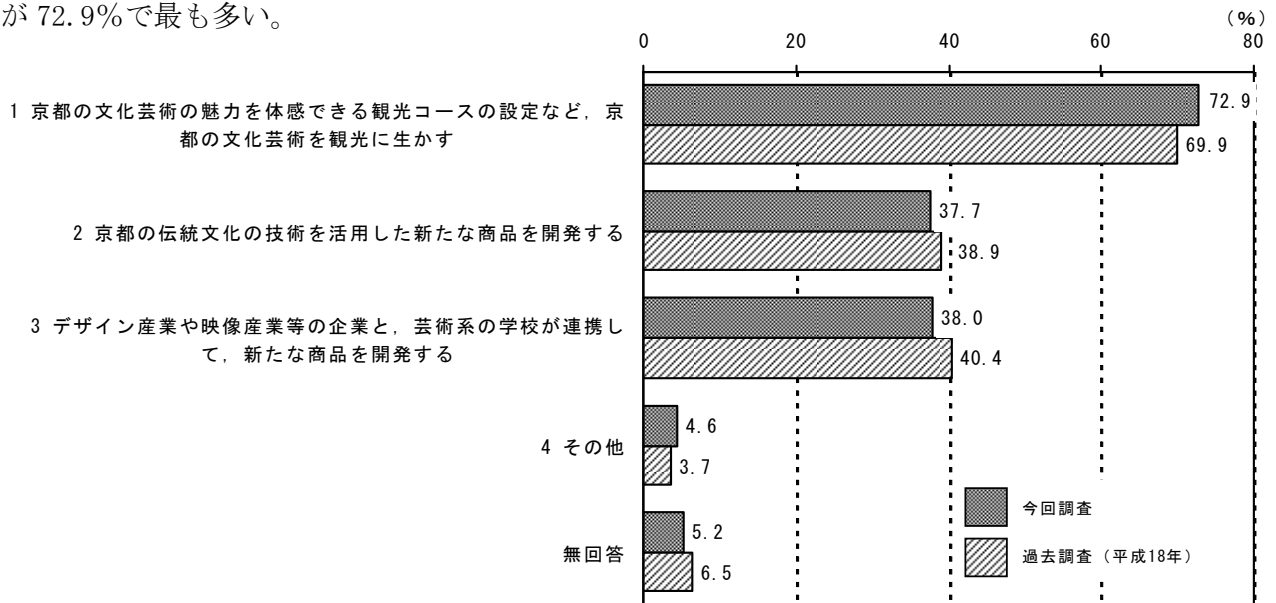


## 文化芸術と産業

問 15 あなたは、文化芸術と産業が連携し、ともに発展するため、どのような取組が必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「京都の文化芸術の魅力を体感できる観光コースの設定など、京都の文化芸術を観光に生かす」が72.9%で最も多い。

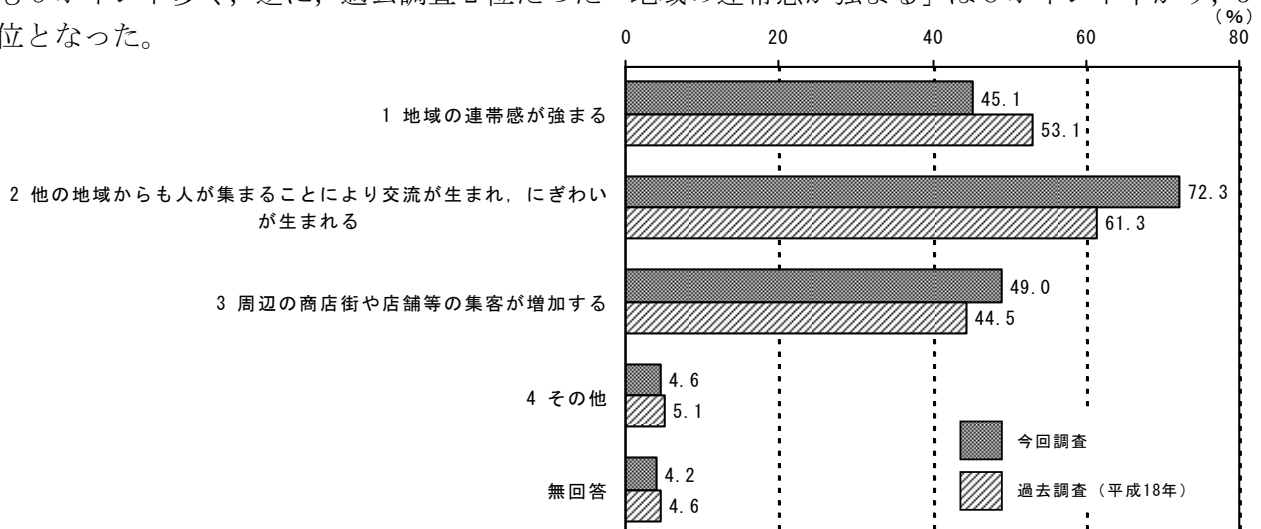


## 文化芸術による地域の活性化

問 16 あなたは、文化芸術活動（文化的な催しや活動）が行われることによって、どのように地域の活性化が進むと思いますか。(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「他の地域からも人が集まることにより交流が生まれ、にぎわいが生まれる」が72.3%で、過去調査に比べて10ポイント以上多い。2位の「周辺の商店街や店舗等の集客が増加する」(49.0%)も5ポイント多く、逆に、過去調査2位だった「地域の連帯感が強まる」は8ポイント下がり、3位となった。





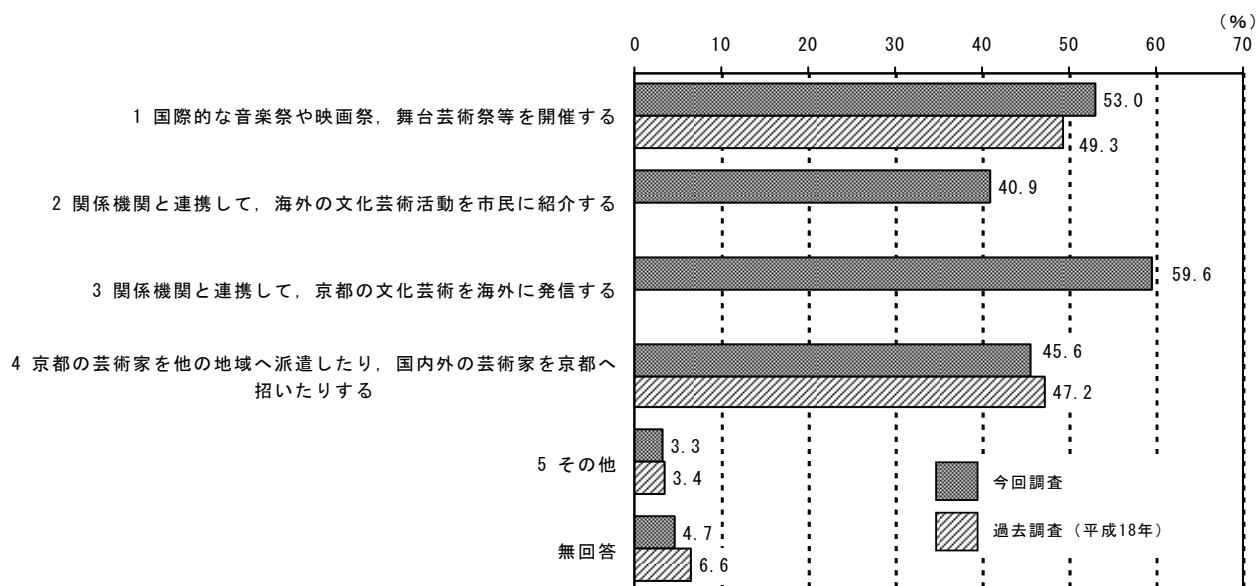
## 文化芸術に関する交流

問 17 あなたは、国内外との文化芸術交流を活発にするため、どのような取組が必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

### [全体傾向]

「関係機関と連携して、京都の文化芸術を海外に発信する」(59.6%)が最も多く、その他は「国際的な音楽祭や映画祭、舞台芸術祭等を開催する」(53.0%)、「京都の芸術家を他の地域へ派遣したり、国内外の芸術家を京都へ招いたりする」(45.6%)、「関係機関と連携して、海外の文化芸術活動を市民に紹介する」(40.9%)となっている。

過去調査では「関係機関と連携して、海外の文化芸術活動を市民に紹介したり、京都の文化芸術を海外に発信する」が1位だったが、今回調査ではより詳しく市民意見をみるため要素を2分して尋ねたところ、「京都文化の発信」の方が多という結果となった。



[注] 過去調査の間「国内外との文化芸術交流を活発にするため、どのような取組が必要だと思いますか。」  
関係機関と連携して、海外の文化芸術活動を市民に紹介したり、京都の文化芸術を海外に発信する 61.5%。

#### 4 文化芸術都市創生に向けて、重要な施策とは

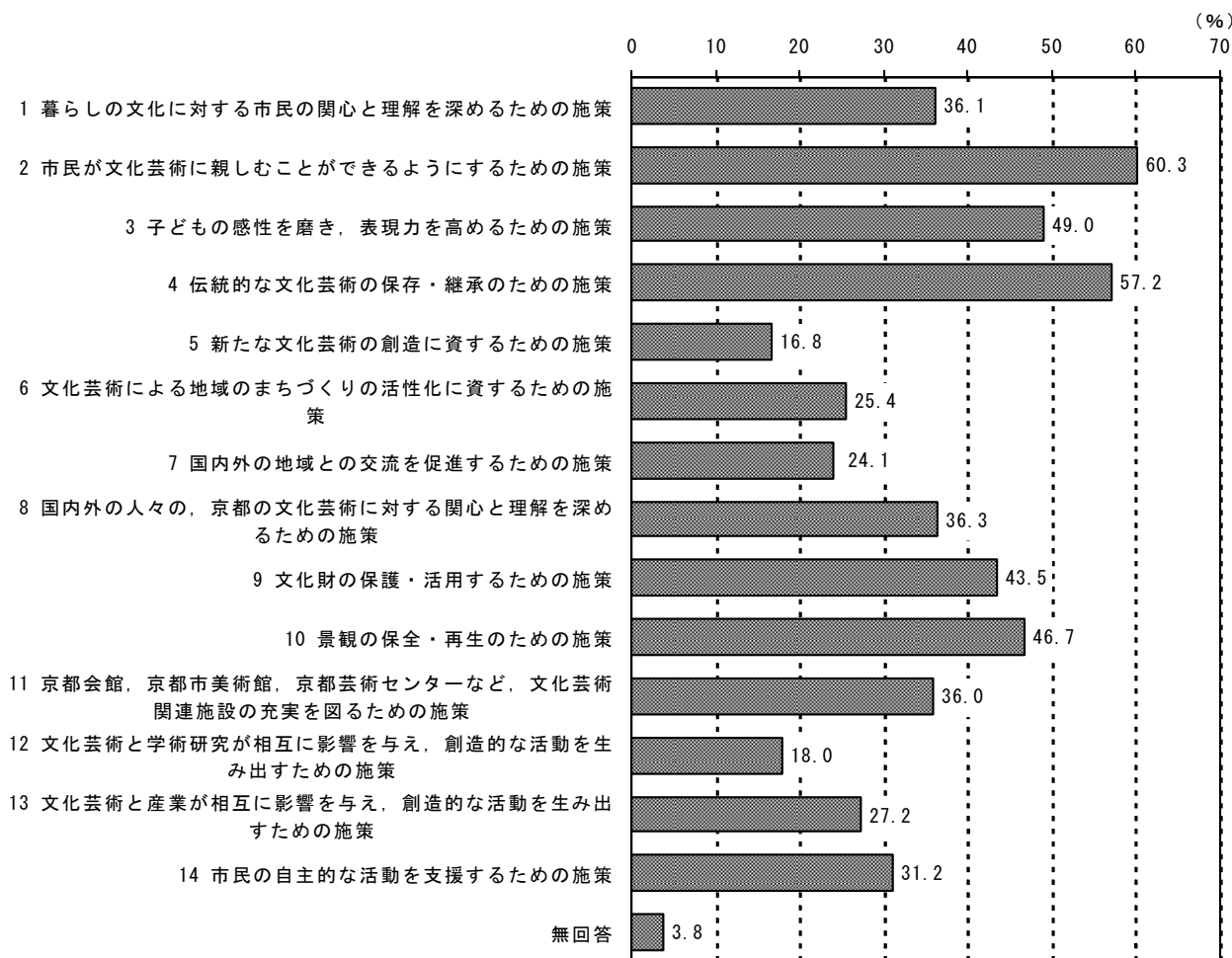
☞ 文化芸術都市・京都の創生に向け、行政の取組で必要なものは、「市民が文化芸術に親しむことができるようにするための施策」(60%)が最も多く、「伝統的な文化芸術の保存・継承のための施策」(57%)、「子どもの感性を磨き、表現力を高めるための施策」(49%)、「景観の保全・再生のための施策」(47%)、「文化財の保護・活用するための施策」(44%)が上位

#### 文化芸術都市創生に向けて

問 18 あなたは、文化芸術都市・京都を創生するため、行政の取組として何が必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

#### [全体傾向]

「市民が文化芸術に親しむことができるようにするための施策」(60.3%)が最も多く、「伝統的な文化芸術の保存・継承のための施策」(57.2%)、「子どもの感性を磨き、表現力を高めるための施策」(49.0%)、「景観の保全・再生のための施策」(46.7%)、「文化財の保護・活用するための施策」(43.5%)が40%以上である。



## 5 自由記述

- ☞ 回答者数は 361 人（記入率 36.7%）
- ☞ 鑑賞機会の充実や、文化芸術をもっと身近に、といった意見が 80 件以上と最も多く、このうち、学校教育を含め子どもを対象とする施策充実への要望が 3 割を占めた。
- ☞ このほか、情報提供の必要性、文化的環境・景観の大切さ、市民の文化活動の重視、文化芸術施設整備への要望、生活文化・暮らしの文化の重視をはじめとして、多岐にわたる幅広い提言、要望が寄せられた。

問 20 京都市の文化政策全般について、自由に御意見をお書きください。

### 意見例

#### [鑑賞・体験機会について]

- ・一般市民が気軽に触れられる機会を多く作ってほしい。（男，40 歳代）
- ・他都市と比べても文化芸術が充実しているがなかなか触れる機会がない。行政には今後とも積極的な取り組みを願う。（女，30 歳代）
- ・子供たちが直接芸術に触れる機会を増やす必要があるのでは。（女，60 歳代）
- ・この街を誇りに思い愛するのは子ども時代に受けるものが多いと思うので、学校での授業なり活動をもっと活発に。（女，30 歳代）

#### [情報提供について]

- ・対外的な情報発信はよくされているのではないか。市民に対しては無料にするなど市民によさをしてもらう情報発信を。（男，30 歳代）
- ・日本一といえるほどの文化や芸術歴史を PR し切れていない。そして、市民の自覚から地域活性化を。（女，20 歳代）

#### [文化的環境・景観について]

- ・京都の景観はヨーロッパの歴史都市に対抗しうるものではない。看板等の規制や電線の地中化、アスファルト歩道の石畳化についてももう少し厳しくやってもいいのでは。（男，30 歳代）
- ・街角の至る所に京都の歴史を感じられるような案内板を設置するなど文化芸術を身近にしていく。（男，30 歳代）

#### [市民の文化活動について]

- ・大掛かりなイベントより少ない作品などを気楽に発表できる場を作ってほしい。（女，60 歳代）
- ・地域コミュニティが大事。体育活動を普及させている「体振」のように地域に密着した「芸振」があれば。（男，50 歳代）

#### [文化施設について]

- ・収容人数が大きい場所を作り、京都発のコンサート等をもっと企画してほしい。（女，20 歳代）
- ・あらゆる文化芸術を鑑賞したり体験できる総合的な施設が必要。格式より気軽に市民が触れることができる創意工夫を。（女，50 歳代）

#### [生活文化、暮らしの文化について]

- ・古来の生活習慣が子供たちに伝わっていない。祇園、嵐山だけが京都じゃなく、生活や毎月の行事イベントがあたりまえの文化といえる（女，40 歳代）
- ・京都の言葉や生活習慣は主に家族やご近所づきあいで传承されていく。三世代四世代で同居もしくは近居の環境があれば受け継がれる。若い人が京都にとどまれることも大切。（女，30 歳代）